

図書の部屋整備の取組み

蒲田ルーテル幼稚園

【目的】

幼児期に絵本を見たり読み聞かせをしてもらうことで、想像力が豊かになる。それは、物語を通してさまざまな経験をし、道の世界や人の気持ちを想像することができるようになるからである。また、絵本を読むことで得られる想像力や表現力は人とかかわるコミュニケーション能力も養う。それらの力は、子どもたちがこれから生きていくために必要な力となるはずである。タブレットやアニメに触れることが多くなっている子どもたちに、園生活の中で多様な本に親しむ機会を増やしたい。

【概要】

- ・使用していない小部屋を、子どもたちがリラックスして過ごせるような雰囲気になるようリフォームした。
- ・部屋を訪れた子どもたちが寛いで絵本を手にとることができるような家具を配置した。
- ・園の蔵書だけでは幼児期に読んでほしい（読み聞かせたい）本が不足していたため、西東京こどものとも社のご協力により、魅力ある絵本を買い揃えた。
- ・蔵書が大幅に増えたため、それらの管理をするためのソフトを導入した。バーコードで管理することにより、保育者がリストから簡単に探し出すことが可能になり、また、部屋から持ち出されている場合にも絵本の在りかを定かにすることができるようになった。

【取組みの状況】

- ・既存の蔵書の整理、新しく購入した絵本も合わせて蔵書リストの作成を進めた。リフォーム工事、絵本や家具の搬入に予定していたよりも時間を要した。
- ・小さな部屋のため、絵本好きな子どもに限らず喧騒から離れて静かに過ごしたい子どもが好んで訪れている。
- ・今までは各保育室の小さな本棚に、保育者が選んだ絵本が置かれているだけであったが、子どもが主体的に絵本を選び楽しむようになった。
- ・一人で過ごす子どもだけでなく、友だちと一緒に会話をしながら絵本を楽しむ姿も見られ、新しい関係づくりの場にもなっている。
- ・絵本を読んだり絵を楽しむだけでなく、図鑑を囲んで園庭で見つけた植物や虫について調べたり新しい発見を楽しむ姿も見られた。